

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	外町交流広場施設管理運営費					
担当課係名	商工	課	商工物産	係	作成者 大山肇浩	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画のページ	
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	観光客受入態勢の整備			28	
予算費目	一般	会計	7款	商工費	1項 商工費	
事業期間	平成	年度	～	平成	年度	
性質区分	<input type="checkbox"/>	市民サービス	<input type="checkbox"/>	公共事業	<input checked="" type="checkbox"/>	施設維持管理
根拠法令等	仙北市外町交流広場条例					
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/>	自治事務	<input type="checkbox"/>	法定受託事務		
運営方法	<input type="checkbox"/>	直営	<input type="checkbox"/>	直営（一部民間委託）	<input checked="" type="checkbox"/>	民間委託（全部）
					<input type="checkbox"/>	補助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	中心市街地の住民と訪れる観光客への利便をはかり、中心市街地の活性化と観光交流サービスの向上を図る。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	地域住民の交流の場としてや、観光に訪れる観光客への利便を向上させることで交流人口を増やし、地域の活力向上や経済的活性化に資する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	指定管理者に施設の運営や維持管理を委託し、施設の有効な利用を行う。

【事務事業の推移】

	項 目		単位	23年度実績		
	効果	活動指標	入館者数	目標	人	36,000
実績				人	36,632	
達成度				%	101.8%	
成果指標		入館者数	目標	人	36,000	
			実績	人	36,632	
			達成度	%	101.8%	
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			2,083		
	人 件 費 (B)		—	85		
	職 員 数		—	0.01		
	職員平均人件費		—	8,479		
	(A)+(B) 投下コスト		—	2,168		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			2,168	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	59		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	73		

【事務事業の今までの成果】

平成20年11月から施設の利用を開始。利用状況はH20年度利用者数10,239人、会議9回、イベント5回。H21年度利用者数30,751人、会議31回、イベント31回。H22年度利用者39,625人、会議45回、イベント21回。H23年度利用者36,632人、会議45回、イベント24回となっている。月平均利用者2,860人、月平均会議数3回、月平均イベント数2回の利用がある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	-
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	オストメイト対応多目的トイレが設置されており、通常のトイレを利用できない方々に好評を得ている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	外町地区の活性化と観光交流サービス向上のため必要な施設であり、事業形態も目的に対して適正であり、必要経費も必要最小限であると判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）		

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	中心市街地の活性化と、観光客への利便性を図るために必要な施設であると考えます。今後も指定管理者と情報を共有し、適切な管理運営を行う必要があると考えます。

